

チーム・コヤーラ主催 人形展

「それからの人形達」展

「人形と作者」展（同時開催）出品者募集！

昨年の公募展会場



チーム・コヤーラが隔年で主催する人形公募展に出品された方のその後の追う展覧会を行います。プロの招待作家の展示を含め、展示を通じた交流、意見交換の場を提供します。また交流会は出品者の方でなくても、コヤーラ・クラブ会員の方であれば誰でも参加できます。

チーム・コヤーラ主催 創作人形展「それからの人形達」

A：招待作家 プロの作家による作例を展示

B：今までの公募展出品者（20～30名）公募展出品経験者のその後の制作の変遷をたどる展示。（出展者はチームコヤーラで検討させて頂き、該当者に順次ご連絡させていただきます。）

実験的展示「人形と作者」展（6名）※出品者募集！

前半3名（17日～19日）・後半3名（20日～22日）、公募による制作者が搬入・飾り付けを公開、展示1日目は作品と共に「作者という展示品」として在廊して頂きます。同時にその作品の公開講評を行います（講評作家未定）。

会期 2015年11月17日（火）～11月22日（日）

会場 NHKふれあいホールギャラリー（東京・渋谷）

搬入 11月16日（月）※ 搬出 11月22日

「DOLL FORUM JAPAN and...」

チーム・コヤーラの活動のルーツとなった創作人形情報誌『DOLL FORUM JAPAN』がウェブマガジンに。動画を交えた展示レポートや論考などを掲載しています。更新は不定期。http://dollforum.blogspot.jp/



※実験的展示「人形と作者」展 出展の方は搬出入時間が異なります。

「前半」の方 17日 搬入、講評、インタビュー、19日搬出

「後半」の方 20日 搬入、講評、インタビュー、22日搬出

「人形と作者」展はどなたでも応募できますが、17日か20日は必ず本人が搬入、終日在庫することが条件となります。（出品料 会員5000円、一般10000円）

※Bとの重複応募可。その場合は「人形と作者」展の作品もご準備ください。

・恒例！ コヤーラ・パーティ（交流会）は、11月16日夜を予定しております。どなたでも参加できます。通信23号で詳細をお知らせします。

実験的展示「人形と作者」展 出品者募集！

前半3名（17日～19日）・後半3名（20日～22日）

人形はその作者以上にその人を語っていると思いませんか？

今回、チーム・コヤーラでは展示する作者の一日を公開するドキュメンタリー的な展示に挑戦します。

人形展が始まっている会場の真ん中で、搬入から飾り付けまでを公開し、展示ができた作者も「展示品」としてそのまま在廊して頂きます。

その間、招待作家による公開講評、インタビューなどを行います。おしゃべりも、会場内を動き回るのもOK。

記録動画もインターネットで公開します（ネット配信についてご理解頂ける方が対象）。うまい、下手ではない。今ある自分の姿が人形と共に映し出されれば、なぜこのヒトガタなのかという客観的な見直しができるかもしれません。もちろん、プロの方の応募も大歓迎です。

興味のある方、関心のある方の応募をお待ちしております。

審査は基本的になく、先着順となります。

チーム・コヤーラからのお知らせ

●アンケートをご利用下さい。

同封されているアンケートは、会員の皆様のご希望やご意見を伺うためのものです。このアンケートから、活躍のステージを発展させた方もいます。どうぞご利用下さい。

チーム・コヤーラのウェブサイト、引っ越しました。

4月に下記のアドレスに移行しました。
ブックマークの変更をお願いいたします。

http://koyaala.jp/



作品写真 2～3点（全体・アップ・裸形） サイズ：ハガキ大。
「会員番号」「作家名」「タイトル」「素材」「サイズ」他、簡単なコメントなど。
※何点でも応募できますが、誌面の都合上掲載はお一人1点になります。
※応募作品はウェブ上で公開されることもあります。（講評は紙面のみ掲載）
※応募書類は返却いたしません。

個人情報について

頂いた個人情報はチーム・コヤーラの業務委託を受ける HAZEKI office が厳重に管理します。名簿はチーム・コヤーラのニュースレター発送に使用させていただく他、チーム・コヤーラの趣旨に沿ってDMクラブ会員にとって有意義と判断した情報を伝達する以外には一切使用せず、チーム・コヤーラ以外の第三者が閲覧、使用することは一切ありません。

各お申し込み・連絡先

チーム・コヤーラ
東京都東村山市久米川町 3-27-57 HAZEKI office 内
TEL 042-395-7547（担当 ハゼキ）
FAX 042-395-7975
URL http://koyaala.jp/
Email team_koyaala@yahoo.co.jp

KOYAALA 通信 編集責任者 羽関チエコ（HAZEKI office）
©KOYAALA TSUSHIN 2010, printed in Japan 本紙記載の記事・写真の無断使用・転載を禁じます。



Jul.1, 2015



「KOYAALA 通信」は、チーム・コヤーラがコヤーラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。年4回発行 発行日（予定） 1月1日、4月1日、7月1日、10月1日

創作人形をつくる人たちにこそ、見てほしい



FANTANIMA! は、今年で3回目の開催となり、開催を楽しみにしてくださる方も増え、知らずに入ってきた一般のお客様が次の開催を記憶して帰られるような場面も何度か見られました。

2013年に始まったFANTANIMA!の企画は、ティディベアやぬいぐるみの作家も扱いますが、既存の市場を対象とはしていませんでした。創作人形作家の出品が多いのもその理由です。海外の作家作品が多いのもFANTANIMA!の特徴です。来場するお客様も口々につぶやかれていましたが、そのデザインのセンスや技術、表現力は美術的に考えても高水準で、動物の飾り物に対する安易な印象を払拭します。日本の出品者も楽しみにするほど、海外作家の作品は刺激とユーモアに溢れています。

対象を観察し、メッセージやユーモアを交えてデザインをまとめ、使うべき素材を吟味する。デフォルメの自由さは、人形を作る人に比べると人の形以上に可能性があって、逆に難しい作業だと思います。海外作家の作品はどこをとっても隙を感じさせないばかりか、衝動買いでも買っていける価格帯から選択肢がありました。

実はそれはかつての創作人形にも言えていたことだと思います。そういう意味で市場が減速しつつある創作人形の作り手には、それを見てぜひ感じて欲しいと思っていました。今年2月に行ったみそろぎ人形展でも郷土人形を創作人形とコラボさせることに、同様の思いがありました。

経済格差が広がり、美術品が以前より高嶺の花になってきた昨今、人形に創作性を求めて始まった創作人形が、ふたたび市場の支持を得て活を取り戻すためのヒントが、FANTANIMA!にはちりばめられていたと思います。質感や色づかい、さまざまな要素を通して、無意識に注意を引きつけるのはヒトガタや生き物の形をした造形の利点。何故その素材なのか、形なのかを、目が合ったら気にせずにはいられない作品の力が我々を動かすのです。（FANTANIMA!企画 羽関チエコ）

東京 2015年4月29日～5月5日 丸善丸ノ内本店ギャラリー
大阪 2015年5月14日～6月9日 珈琲舎・書肆/Luft アラビク 乙女屋サロン（5月26日迄）

FANTANIMA! は来年もゴールデンウィークにスタート予定です。

①徳井綾さんの「ノミのサーカス」は誰もが驚嘆し、日本人作家の作品と見られていない方もたくさんいました。
②今年のFANTANIMA!の隠しテーマは「緑」。会場も植物を飾りに利用し、ショーウィンドウでは生から死をイメージしたアレンジメント。（協力・揺り花flower）
③ロシアのラキボヴァの作品「猫鹿」。
④国内の作家も健闘。しろいろさんのユーモラスな作品は常に新規のお客様の関心をひき、例年完売。
⑤大阪会場のアラビクで年ごとに成長する店頭のシダ類。今年のFANTANIMA!にぴったりの入り口に。
⑥会場の乙女屋前で、今年のリポート役のファニ子とロシアのスボタの作品、ゲンゴロウの「スボ子」。大阪では作品をキャラクターに見立てたストーリーがツイッターでリアルタイムで盛り上がる参加型の展示に。



スプリング・ドール・フェスティバルへの参加

2015 年 4 月 23 日・24 日
ミュンスター（ドイツ）

90 年代の創作人形市場全盛の頃に比べると、老熟した今のヨーロッパ人形市場で、資本と労力を投じて人形イベントに尽力する主催者が出現したことは、奇跡としか思えませんでした。

長寿イベント「ティピエアトータル」の経営を前主催者から引継いだセバスチャン・マーグアード氏のチームは、3 年間で入場前に行列ができるほどの盛況まで盛り返し、その成功を人形にも応用できると考えました。それが今年 4 月に初めて開催された スプリングドールフェスティバル（以降、SDF）です。

第 1 回の開催に至るまで、保守的なヨーロッパの人形界において関係者や作家の信頼を得るまで様々な苦労があったようです。それでも 15 개국から、創作やディーラーなど 150 の出品者が集まりました。SDF は日本からの出品者の便宜を図り、ウェブサイトも日本語で用意、会場には日本語通訳を配しました。

チーム・コヤーラとロシアの ART OF DOLL, DOLL SALON の主催者の展示は会場中央に設けられました。チーム・コヤーラのブースでは、コヤーラ・クラブ会員の方など 14 名の作品を展示、また現地には個人参加の清水真理さんの他、6 人の方が赴かれ、チーム・コヤーラ代表として作家の咲耶さんが記者会見などに応じました。

集客的には第 1 回目だけにティピエアトータル目的の数に届らなかった面があり（入場券は両イベント共通）、これは主催者も認めており、展示会后、すぐに問題点への反省と感謝を真摯に綴った出品者へのサンキューレターを発行しました。参加者の不満にも正面から応えています。このような姿勢は、今迄の主催者には見られませんでした。

最初に述べたように、現在のヨーロッパの創作人形市場は活気がなく、若い作家も出てこない状況ですが、何もしなければ先細るだけでしょう。紹介者と作り手が一緒になって、人形の魅力を改めて知らせる努力をしない限り状況の変化は望めません。そういう意味で、今回の日本からの出品はこのイベントの目玉として貢献し、主催者から大変感謝されました。しばらくは荒地に種を撒くような状況が続くかもしれませんが、勇気ある挑戦に協力すること自体に喜びがありそうです。

90 年代の人形のイベントは情報交流が少なく、それぞれの国や文化の違いが明確でしたが、今はスタート地点が違います。SDF が継続すれば、グローバルな人形文化の拠点になっていくでしょう。

主催者は広い範囲を対象に、SDF を国際的な人形展として発展させようとしています。グンツェルをはじめとするヨーロッパの作家やロシアの展示も予定されています。チーム・コヤーラも引き続き、SDF の主催者チームに協力し、来年もブース展示する予定です。出品に関心のある方は、事務局までお問い合わせ下さい。

2016 年は 4 月 23 日・24 日に開催予定。
<http://springdolfestival.jp.com/>（日本語サイトあり）
・一般申し込みは審査はありません。日本語ウェブサイトからお申し込みができ、早期割引もあります。
・参加ツアーも企画中です。
・チーム・コヤーラブースへの出品はコヤーラ・クラブの方は申し込み可能（審査有）。グループでの参加、作品のみの出品もご相談ください。

①チーム・コヤーラのブース ②SDF 会場 左上の白い壁部分がチーム・コヤーラ ③清水真理 Shimizu Mari ④亀島利子 Kamejima Toshiko ⑤原田万紀 Harada Maki ⑥渡邊萌 Watanabe Moe ⑦村田ちか Murata Chika ⑧漆あきこ Urushi Akiko ⑨植田文子 Ueda Fumiko ⑩KINO4TA ⑪咲耶 Sakuya ⑫Memi ⑬新家智子 Shinke Satoko ⑭太田庸子 Ota Yoko ⑮柴崎弘子 Shibazaki Hiroko ⑯上野延子 Ueno Nobuko ⑰グロスマン里奈 Grossman Rina
敬称略 photos:Sakuya, Shinke Satoko, Vera Vlasova



Kouzuma Midori ball jointed doll Exhibition (Kumamoto)



上妻みどりさんは郷里の熊本で高校生のときから布人形で個展を行い、学生時代には既に人形作家として活躍されていました。結婚後上京、ブランクを経て制作を再開。迷いを抱えながらチーム・コヤーラの公募展で作品発表後、一步前に進んで美術館での個展に挑戦されました。4 月の個展を追えた感想を頂きました。

23 年ぶりの個展を終えて essay

人形製作に疲れている方がいらっしゃると思ったら、そこから救い出してくれるのは、多分人との交流です。私は熊本市の出身で、この 4 月に、23 年ぶりに故郷で個展を開きました。

結婚で上京し、すぐに子供が生まれたりしたので、苦しい人形制作からさよならしていたのです。しかし、娘から人形づくりを再開して欲しいと言われ、長いブランクの後、以前、超短期間通ったことがあるビッグマリオン人形教室で、球体関節人形を勉強しました。

私は、本当に人形づくりがうまくありません。なぜかなと考えると、基本的に雑な性格だからです。球体関節人形というのは、球がきちんとかみ合わない美しく動作しません。体も顔もひとがたですから、雑なままでは、自分から見て心地良いと思うものはつくれないのです。自分の性格と向き合いながら、我慢もし、コツコツとやりました。そうしているうちには、身内の介護や別れなどがあり、環境の変化に心と体がぐたびれて、人形なんぞをつくって何になるんだと、虚しくなっていました。

昨年のコヤーラの公募展のあと、羽関さんに相談しました。「人形をつくる、つくらないは自由。自分が楽しいと思うことを大切に」というアドバイスをいただきましたが、その言葉だけで、私は自分の好きなことに焦点をあてて生きることを始めました。公募展を通して、人形をつくる人とのつながりもできました。そうやって楽しくしていたら、熊本での個展の話が届きました。風の通る、周囲の自然もきれいな、広い会場です。私は、この空間に心を奪われ、ここで個展をしたいと、気持ちが決まって行ったのです。

熊本での個展には、とても沢山の人来ていただきました。私は、臆することなく胸を張って宣伝活動もしました。何かお伝えするものがあるはずと確信して。

個展は、人形を媒体に、会場に来て下さった人たちが楽しい景観をつくっていました。取材した記者さんによると、私は「すがすがしい表情」をしていたそうです。故郷で心が洗われる思いが表情に出ていたのでしょうか。個展を開いてよかったと思います。

上妻みどり

上妻みどり球体関節人形展 島田美術館（熊本市 4 月 9 日～13 日）

report

ドールワールドフェスティバル

14 回目を迎えるドールワールドフェスティバルが 6 月 13 日と 14 日の二日間開催されました。今回から会場は浅草の東京都立産業貿易センター台東館に移動しました。

当初はレプリカのビスクドールが中心だったイベントですが、今では素材、技法、年代ともに層の広いイベントとして着実に成長している印象です。人形を冠したイベントで創作人形の作り手たちの受け皿として定着してきているようで、コヤーラ・クラブの会員の方も多数見られました。実行委員会が、ブース代の価格維持や出品者の枠を広

げることを意識して取り組んできたことが、このイベントを成長させている理由だと思います。紙面でコヤーラ・クラブの会員の作品を一部で紹介させていただきます。次回は 12 月 6 日開催。

【お問合せ】ドールワールド実行委員会 TEL/FAX 03 - 6679 - 1486 インターネットの「DOLL FORUM JAPAN and…」では、会場写真や小

川さんのインタビュー動画がご覧になれます。

<http://dollforum.blogspot.jp/>

写真 左より 大八木ミノル、ゆきち、たつきー、コンデクレン、ちゃお

